

お客様とともに

竹田 i Pグループは、竹田 i Pホールディングスの前身にあたる竹田印刷の創業以来、一貫して真心込めたきめ細かいサービスを信条としており、誠実を尊ぶ文化があります。

グループ全体が心ある誠実な企業風土を持ち、常にお客様に寄り添うサービスを提供し続けたいと考えています。

お客様のパートナー企業を目指して

17.17

サステナビリティ

ガバナンス

環境活動

社会活動

データ集

■ 竹田印刷（株）

2024年10月30日～11月1日の3日間にわたり、ポートメッセなごやにて開催された日本最大級異業種交流展示会「メッセナゴヤ2024」に出展しました。出展分野の一つである「デジタル化（DX、AI、IoT）の提案」に合わせて、ロジスティクス、プロモーション支援（イベント、動画、WEB、ノベルティ）、広報サポート（Web社内報パッケージ「Yomikatsu!」）、社会貢献活動（アール・ブリュット）に関する事例などを展示し、多くの来場者の皆様に、竹田印刷の幅広いサービスや活動内容を知っていただくことができました。



2024年11月19日・20日の2日間にわたり、東京ビッグサイトにて開催された「第1回バックオフィスDXPO東京'24【秋】」に出展し、「TS-BASE 受発注」をメインにご紹介。来場者の皆様には、「TS-BASE 受発注」のシステムを実際に操作していただき、その充実した機能をご体感いただきました。受発注業務に課題をお持ちの方々からは、サービス内容に関する具体的なご相談やご質問も多く寄せられ、今後の営業活動や導入提案に向けた有益な機会となりました。



■ (株) 光文堂

2025年1月22日・23日に、ポートメッセなごやにて第61回新春機材展が開催され、出展社数153社・390小間が出展しました。今回は「SLIM&STRONG～その先へ～」をテーマに、最新鋭の印刷機材の展示はもちろん、印刷業界でのビジネス交流を目的とした「コラボレーション展」、業界情報やビジネスモデルをレクチャーする「特別セミナー」などを実施しました。光文堂のブースでは、「KBDリンクリンク」※など、時代を見据えた高性能システムが展示されました。

※ KBDリンクリンク：カタログやタウン誌などの紙媒体への掲載用として作成したPDFを、そのままWEBページにアップした際に、スマートフォンに表示されたPDF上の二次元コードをタップすると、そのまま該当のWEBサイトに遷移することができるというシステム。



2024年10月10日・11日に、第48回最新製本省力化機材展が光文堂のテクニカルステーションにて開催され、18のメーカーによる、実演を交えた製本・紙加工機器の展示を行いました。また、外部講師を迎えて開催されたセミナーでは、印刷機の折り工程における効率化と品質向上のポイントについて解説が行われ、例年同様、多くの参加者で賑わいました。



■ (株) プロセス・ラボ・ミクロン

2024年6月12日～14日の3日間にわたり、電子機器や自動車を製造する上で欠かすことができない、電子部品実装技術の総合展示会であるJISSO PROTEC（第25回実装プロセステクノロジー展）が開催され、実装関連分野として出展しました。今回は、電子部品実装および半導体パッケージング向けのメタルマスクを展示しました。ご来場いただいた多くのお客様が、現在抱えている課題や将来的に直面する可能性のある課題についてご相談くださり、今後の市場の発展をお客様とともに実感する貴重な機会となりました。



ISO9001（品質マネジメントシステム）認証取得

	竹田印刷（株） 竹田 i Pホールディングス（株）	日栄印刷紙工（株）	竹田東京プロセスサービス（株）	（株）プロセス・ラボ・ミクロン
認証取得日	1999年11月15日	2015年11月2日	1999年12月1日	2000年6月26日
認証登録番号	07965-A		12915-A	09146

品質に関する基本的な考え方

竹田印刷ではISOの3つの規格9001（品質）、14001（環境）、27001（情報セキュリティ）およびJIS Q15001（個人情報保護）のマネジメントシステムを統括して、TMS（竹田マネジメントシステム）として運用しています。品質に関しては、ISO9001に基づいて品質保証体制を整備し、品質管理に万全を期しています。さらに、品質の向上を図るため継続的な改善を行い、常に信頼される製品を提供することにより、お客様の発展に貢献したいと考えています。



品質不適合発生時の対応

品質不適合発生の際には「不適合及び緊急事態対応管理規定」に基づき①事実調査 ②原因の究明 ③影響範囲の特定 ④お客様への報告を行います。そして「是正処置規定」に基づき、不適合の再発防止や原因を除去するための是正処置を行い、または正処置の実施状況を3ヶ月後にフォローアップすることで、効果の確認をしています。

品質教育・品質会議

竹田印刷では、新入社員を対象にした基礎的な品質教育をはじめ、TMS（竹田マネジメントシステム）の年間教育計画に基づいた品質教育を行っています。また竹田東京プロセスサービスでは、QCサークル活動を通じた品質意識の向上や品質教育を継続することで、品質第一の風土の構築と維持に努めています。

経営トップが参加している品質会議では、品質トラブルの事例を全社に展開し、組織全体の品質意識の向上につなげるとともに、過去の不具合事例をデータベース化して再発防止に活用しています。



品質向上への取り組み

東海プリントメディア（株）

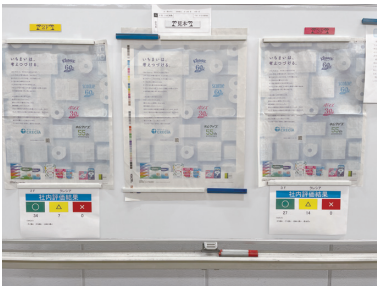
東海プリントメディアが印刷を担う読売新聞では、全30工場で年3回の紙面品評会を実施し、印刷品質の維持・向上に努めています。同社では設立当初より、小集団による「品質・損紙・整備・コスト削減・6S」の5分野で継続的な改善活動を推進。色再現精度の向上、カス落ち削減、設備トラブルの未然防止、冷却ファン停止による電力削減、安全対策の強化など、具体的な成果を挙げ、社員のスキルアップにもつなげています。



小集団活動内容の掲示ボード



社内紙面品評結果



竹田東京プロセスサービス（株）

印刷実験を実施

スクリーンマスクは基本的にオーダーメイドとなるため、お客様の要望に応えるための新商品開発を常に行っています。北陸センターにある技術棟には印刷室と実験室があり、印刷の再現性について可能性を探るなど、お客様と試行錯誤しながら、様々な試作品の作製や実験が行われています。

QC工程表を用いた品質管理

半導体関連マスク製品は、電子部品の一部として使用されるため高い精度が求められます。そのため全数検査により不良品・異常品を取り除き、品質保証に努めています。またQC工程表を作成し、工程に問題が発生した際には改善を行い、一定の品質基準を保つようにしています。

日栄印刷紙工（株）

厳しい品質チェックを実施

日栄印刷紙工では、多様化する顧客ニーズと厳しい品質基準に対応した化粧箱などのパッケージ、各種表示ラベルなどを製造・販売しています。製品によっては全数検査を行っており、ブランクス検査機を使用して、内容により“ハード/ミディアム/ノーマル/イージー”等の検査モードを使い分けながら検査を実施しています。医薬品や化粧品のパッケージは特に厳しく検査をしており、バーコードが読み込めるかどうか、成分がきちんと読めるかどうかなど、限定箇所を厳しく検査しています。

（株）プロセス・ラボ・ミクロン

ISO対象製品を開発

プロセス・ラボ・ミクロンでは、品質向上に向けて以下のように様々なISO対象製品を開発しています。

HGP™メタルマスクの開発

電子回路基板に、はんだペーストを印刷するため、メタルマスクにペーストを流し込む際、マスクの開口部（すきま）からペーストが裏回りしないようにするために、開口部のヘリの鋭角度をシャープにした製品です。電子回路基板に連続印刷する際、ペーストの滲み出し防止に強い効果を発揮します。

SHG™メタルマスクの開発

マスク開口部の壁面を平滑化、また開口部のヘリの鋭角度をシャープにすることで、マスクを引き上げた際にペーストが開口部壁面に残ることを防ぎ、かつペーストが裏回りしないようにすることで、連続印刷時の仕上がりにばらつきが出ないようにした製品です。

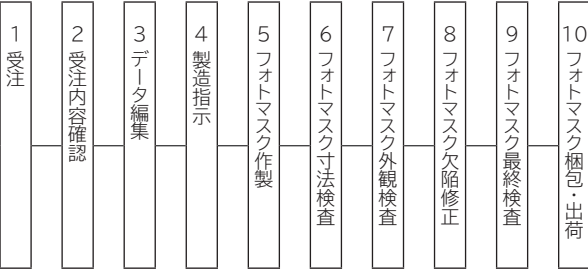


北陸センター 技術棟

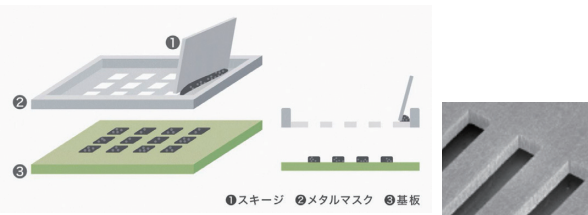


印刷実験室

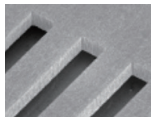
例：フォトマスク 作製工程（概略）



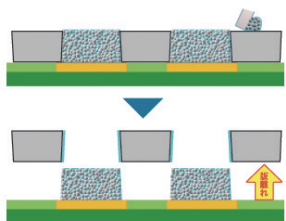
同じ紙面の中で検査モードを使い分けことができ、また不良の内容や大きさが分かるようになっています。（検査条件は、お客様が希望される品質により異なります）



マスクの印刷方法



マスクの開口部



SHGメタルマスク